

2014年度

JICA研修コースの実績紹介

国別研修：「イラン／省エネルギー・再生可能エネルギー」



2014年7月24日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

page. 1

1. 研修コースの紹介

1) コースリーダー / 寺田 雄一



2) 研修コース名

- 和文: イラン 省エネルギー・再生可能エネルギー
(イラン国別研修)
- 英文: Energy Efficiency and Renewable Energy

3) 研修受け入期間: 2014/5/07 ~ 2014/5/28

4) 参加研修員: 10名

5) 研修対象者: 政府関係者および政府関係機関

2.研修の背景



問題点と対策

①イラン国内のエネルギー需要増加により、経済成長の原資である石油の輸出量の減少

②エネルギーの効率的使用が喫緊の課題

省エネルギーの推進
及び再生可能エネルギー
導入施策の推進

3. 研修目標

案件
目標

再生可能エネルギー導入促進について具体的戦略策定ができる情報を提供し、研修員が十分に理解する。

自国での検討～実施



日本での研修



単元目標①

エネルギー政策を理解し、再生可能エネルギー導入促進政策へ反映する

単元目標②

地熱利用に関する技術の全体概要を理解する

単元目標③

風力発電に関する技術の全体概要を理解する

単元目標④

太陽エネルギー(光、熱)利用に関する技術の全体概要を理解する

単元目標⑤

バイオマス発電に関する技術の全体概要を理解する

4. 研修の達成度(評価)

4-1.到達目標(1)

本研修において日本の再生可能エネルギーの包括的な知識を得ること。



研修員の評価

研修員10名の集計結果 (質問票(B))

十分達成(良)



未達成(否)

評価	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	■	■	■	■	■					
B	■	■	■	■	■	■	■			
C										
D										
E										

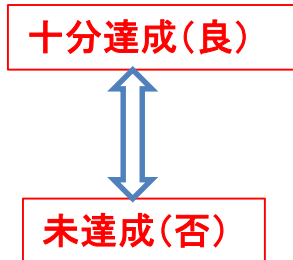
◆当目標は達成できたとの研修員の評価でした。

4-2.到達目標(2)

本研修で課題解決のためのアクションプランを明確にして帰国後実行する。



研修員の評価

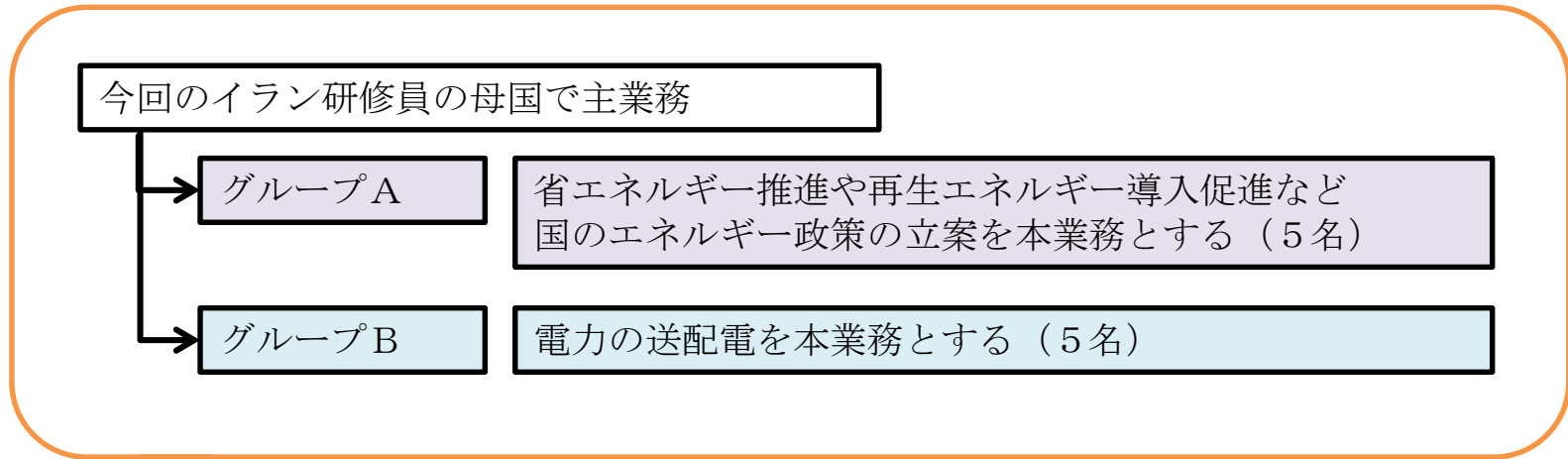


評価	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	■	■	■							
B	■	■	■	■	■	■	■	■		
C	■	■								
D										
E										

◆ 当目標は達成できたとの研修員の評価でした。

5. アクションプランの評価と研修員への期待

2グループに分けてAPを作成・発表したが、課題解決に向けて問題の整理が十分なされており充分期待の持てるアクションプランの内容だった。



【研修員は帰国後に下記項目のレポートを提出予定】

1. 日本での研修経験全体の感想・評価のまとめ
2. 日本での研修内容で国の政策方針変更に役立つ情報
3. 新しい発明もしくは改善に繋がる情報
4. 日本の技術力をイランに移設、展開できる可能性
5. 新たに仕事を起こすという観点から有用な情報

6. コースリーダー感想・新知見

今回の研修で感じたことを雑駁ですが述べさせていただきます。

●『イラン人というのはアラブ人とは違う』

最初に分かったのは『イラン人というのはアラブ人とは違う』ということです。私たちは、イラク、シリア、ヨルダン、サウジアラビア等々、イランの周りの国々がアラブ人の国であるため、イランもアラブの国と混同してしまいがちですが、イランは決してアラブ人の国ではありません。アラビア語ではなくペルシャ語という言語を持ち、ペルシャ人という人種で構成された独自の文化を持つ民族です。長い歴史と文化に誇りを持った礼儀正しく心優しい人々でした。

●『食べ物の話』

今回の研修を受け持った時に、食べ物、お祈りの時間、お祈りの場所、など来日前に色々心配をしました。まず食べ物の話です。もともとタイトな研修スケジュールであったことに加えて、研修姿勢が真面目で熱心な質問により研修時間が延長したことから、昼食時間がバスとか新幹線等、乗り物の中というのが何回もありました。日本にはハラル(イスラムのお祓い)を受けた食べ物がありませんから、当然のことながら食事は制限を受けることになりました。但し、植物および海産物には制約がないようで、コンビニなどの『おにぎり』が助けになりました。また、『お寿司』も好評で研修旅行に出るたびに回転寿司屋の在り処を尋ねられた次第です。

● 『お祈りについて』

お祈りについても研修員の協力により大きな問題はありませんでした。通常お祈りは1日5回が義務付けられており、時間帯もおおよそ決まっているようでしたが、旅行であるとかやむを得ない事情の際には救済策があるようで、夜明けから日没までに2回、日没から夜中の0時までに2回、0時から夜明けまでに1回の合計5回で許してもらえるようでした。ということで、お祈りの時間を設けたのは早朝から日没まで連続して見学研修があった大分の1回だけで、結果的には九州電力新大分発電所の見学終了後に講義室をお借りしました。但し、半分の研修員の方々はお祈りに不参加でしたが・・・。

監理員のアグタイ氏によると『パーレビー国王の政権が崩壊した後、イランという国名が現在の「イスラム共和国イラン」という名前になりましたが、国の指導（押し付け？）でイスラム教徒になった人が多く、敬虔なイスラム教徒は少ない筈』ということでした。因みに斯く言うアグタイ氏は全くイスラム教とは縁がないようで、食事もお祈りも全く無制約でお酒も肉も楽しんでおられました。



●『その他で苦労した点』

今回の研修国が経済制裁対象国である「イラン」であったため、研修スケジュールの選定には、新たな研修先の開拓を含め大変苦労をしました。数社の企業については、イランが重点対象国の取り扱いとなっており、研修の受け入れ可否について研修間際まで揉めることになって

しまいました。最終的には、何とか一件落着いて胸をなでおろした次第です。しかし、研修受入れにゴーサインが出てからは、懇切丁寧な対応を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。



●『研修監理員について』

今回はペルシャ語での研修となりましたので、研修監理員はペルシャ語のアグタイモハマッド氏が付きましたが、人間的にも監理員の資質としても素晴らしい方で、研修がスムーズに行った大きな要素の一つでした。事前の勉強によるものでしょう、専門用語の通訳にも問題がありませんでしたし、何よりも日本人の微妙な心遣い、表現が伝わっていたように思います。勿論、研修員の監理員に対する評価も非常に高かったのは申すまでもありません。心から感謝です。

●『研修員の日本に対する印象』

最後に研修員の日本に対する印象です。次に示した表は、研修員が今回の研修を通して感じた日本への印象です。この回答結果から明らかなように研修員全員が日本に対して好印象を有しており、新たに日本のファンを開拓できたことは何はさておき素晴らしい研修成果であったと思います。

《研修員のアンケート集計》

←良い					～日本に対する印象～					悪い→				
5		4		3		2		1						
8名		2名		0名		0名		0名						

— 以上 —



6. 研修思い出アルバム

